

ふに、びらうの葉は、六七尺ばかりなるもありて、いと長く、上へ立のびたる物なれば、檳榔は、長穂の枕詞におけるにもあるべし、

〔日本書紀天智十七〕九月、皇太子智○天御長津宮略○中遣大山下狹井連アチマサ檳榔○小山下秦造田來津、率軍五千餘衛送於本郷、

〔延喜式民部二十三〕年料別貢雜物略○中

伊豫國筆一管、檳榔二百枚、牛皮三張、斐紙麻一百片、○中略

交易雜物略○中

太宰府中略檳榔馬表六十、

〔飾抄下〕一車略○中

廂車略○中

檳榔廂

保延二三四、大殿忠實原春日詣直衣冠、檳榔有中略部庇

金作車

永治元十廿六、御禊女御代、金作、檳榔毛左殿被獻例檳榔用金物也、青簾下簾紫、連著鞞、自餘如常、

毛車

執柄家々禮之人用檳榔毛檳榔、前關白、近領、鎮西志摩、戸庄、土産云々、仍所望用之云々、當家用菅、但檳榔毛尋得之時用之、又無

難云々、予兩度尋取富小路中納言盛兼卿用之、以二囊爲一兩、但不足云々、

〔書言字考節用集生六〕植ヤシ椰子シ如本枳木櫚似勢如鳳尾、

〔重修本草綱目啓蒙二果〕椰子ヤシ通名、ヤシホ トウヨシノミ津輕一名酒樹潜確、矮胡物名

言法 檳榔事 異名 哥具東西 呂宋南洋 考名

椰子